

Shinkin Asset  
Management Co., Ltd.

ディスクロージャー誌

# DISCLOSURE

2 0 2 4



しんきんアセットマネジメント投信株式会社

# はじめに

しんきんアセットマネジメント投信株式会社は、信用金庫業界の運用会社です。  
皆さまに当社のことをもっと知っていただきたく、  
「ディスクロージャー誌 2024」を作成いたしました。  
本誌が、皆さまの業務運営のお役に立てれば幸いに存じます。

## 経営理念

信用金庫業界の運用会社として、資産運用サービスの提供を通じて信用金庫の経営基盤の強化につとめ、信用金庫業界および社会の発展に貢献します。

## 運営方針

- 1) 質の高い資産運用サービスを提供し、信用金庫のお客様の資産形成に寄与するとともに、信用金庫業界の運用ニーズに的確に応えます。
- 2) 法令等を遵守し、高い倫理観を持って誠実かつ公正な企業活動を遂行します。
- 3) プロフェッショナルな人材の育成を図るとともに、信用金庫業界の人材育成に貢献します。

### <目次>

◆はじめに / 経営理念・運営方針	1P	◆資産運用について	6P
◆ご挨拶	2P	◆運用に関する取組み	7P
◆会社概要	3P	◆商品開発に関する取組み	8P
◆方針等	4P	◆サービス提供に関する取組み	9P
◆コンプライアンス態勢・リスク管理態勢	5P	◆データ集	10P



# ご挨拶



皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、信用金庫業界の運用会社として、1990年12月に設立され、爾来、信用金庫業界の皆さまの資産運用のお手伝いや、信用金庫のお取引先の皆さまの資産形成に資する投資信託商品等をご提供してまいりました。

おかげさまで運用資産合計は1兆円を超え、これもひとえに皆さまのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

現下の金融市場環境は、マイナス金利政策の解除や為替の変動、不透明な国際情勢等により、一段と厳しさを増しております。こうした状況を鑑み、当社は資産運用のプロフェッショナルとして、お客様本位の業務運営に徹しつつ、中長期的な視線に立ち、運用商品・サービスの充実に努めているところです。

2023年度は、責任投資への取組みをより一層進めるとともに新NISA制度への対応を行いました。2024年度は、プロダクトガバナンスの強化に向けた取組みを推進し、お客様の資産形成に資する商品提供体制を更に強化していきます。

今後とも、信用金庫業界および信用金庫のお取引先の皆さまに一番に選ばれる運用会社を目指して、役職員一同、全力を尽くしてまいりますので、引き続きご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

**花岡 隆司**



取締役 勝亦 正和



取締役 森下 浩司



監査役 菊池 俊

※取締役会長 工藤 淳 および 監査役 西村 知明 は、2024年6月20日をもって退任いたしました。

# 会社概要

当社は、信金中央金庫 100%出資の信用金庫業界の運用会社です。

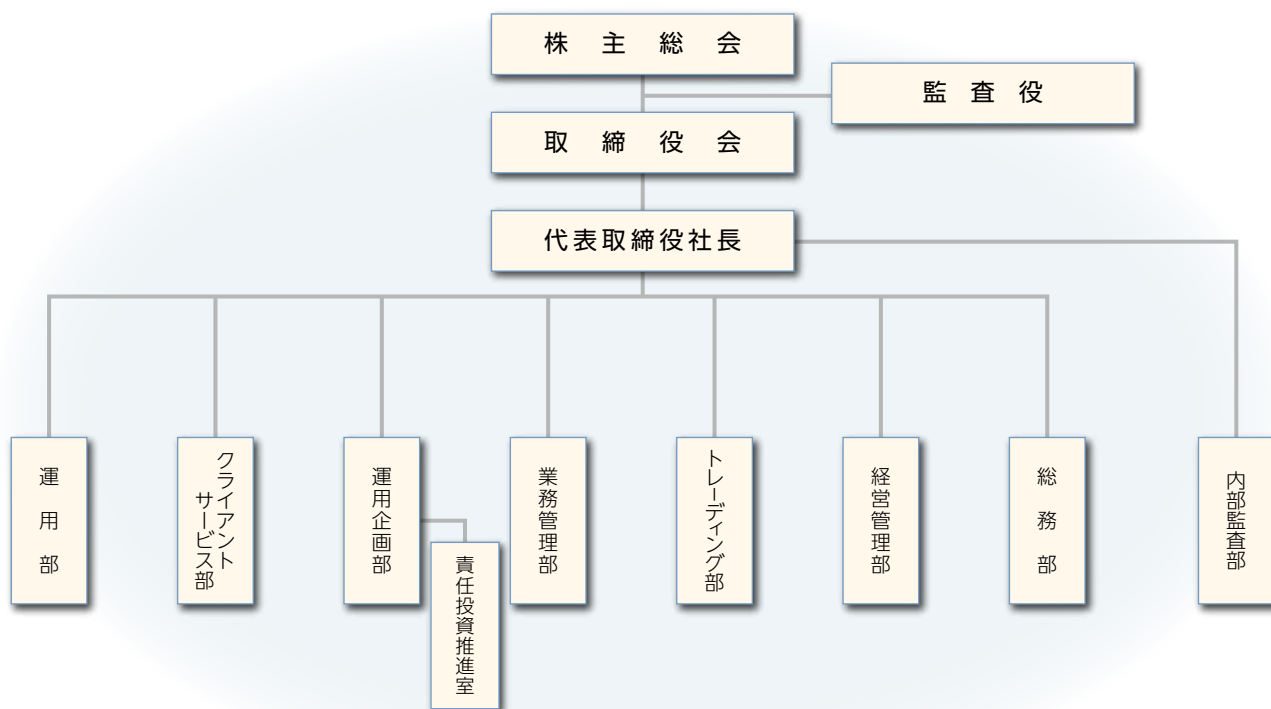
信用金庫の個人顧客向け投信窓販商品の提供や、これに伴う個人顧客向け資産運用セミナーへの講師派遣、信用金庫職員向けトレーニー研修・勉強会等の業務サポートを行っています。

また、機関投資家の資産運用ニーズに応えるべく、国内外の債券、株式等を組入れた様々な投信商品を組成し、しんきん証券株式会社等を通じて提供しています。

## 会社概要 (2024年3月末現在)

・設立	1990年12月14日	・資本金	2億円
・金融商品取引業者	関東財務局長（金商） 第338号	・運用資産残高	1兆2,430億円
・加入協会	一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	・代表取締役社長	花岡 隆司
・事業内容	投資運用業 投資助言・代理業 第二種金融商品取引業	・役職員数	83名（常勤）
		・所在地	〒104-0031 東京都中央区京橋 3-8-1
		・TEL	03-5524-8161（代表）
		・URL	<a href="https://www.skam.co.jp">https://www.skam.co.jp</a>

## 組織図 (2024年6月20日現在)



※意思決定の迅速化および企画機能強化等のため、2024年4月1日付で本部の廃止および一部の部門名の変更等を行う組織改正を実施しました。



# 方針等

## <お客様本位の業務運営>

お客様の安定的な資産形成の実現に貢献するため、「お客様本位の業務運営に関する取組方針」および「お客様本位の業務運営に関するアクションプラン」を制定・公表し、お客様本位の業務運営に取り組んでいます。

### 【お客様本位の業務運営に関する取組方針】

#### 1. お客様の最善の利益の追求

全役職員が高い専門性と企業倫理をもって、お客様本位の業務運営を徹底し、お客様の最善の利益を追求します。また、お客様本位の業務運営が企業文化として定着するよう努めます。

#### 2. 利益相反の適切な管理

お客様の利益が不当に害されることがないように、利益相反にかかる管理を適切に行います。

#### 3. 手数料等の明確化

お客様に負担いただく手数料その他費用について、お客様に十分ご理解いただけるよう、丁寧な形で情報提供を行います。

#### 4. 重要な情報の分かりやすい提供

商品・サービスの販売・推奨等にかかる重要な情報や経済環境・市場動向等について、お客様に十分ご理解いただけるよう、丁寧な形で情報提供を行います。

#### 5. お客様に最適な商品・サービスの提供











お客様の資産状況、取引経験、知識および取引目的・ニーズに照らして、お客様に最適な商品・サービスの提供を行います。

#### 6. お客様本位の業務運営を徹底するための枠組みの整備

お客様本位の業務運営を徹底するため、業績評価や役職員研修等の枠組みを整備します。

## <SDG sへの取組み>

SDG s（持続可能な開発目標）について、信金中央金庫グループとして「地域」、「人々」および「環境」の3つを重要なテーマとして取り組み、社会の持続可能な発展に向けて貢献してまいります。

テーマ	取組事例	関連するSDGs
<p><b>◆地域の持続的繁栄</b></p> <p>地域を支える信用金庫とその事業基盤である中小企業の持続可能性を高めるとともに、地域活性化支援への取組みを推進することで、地域社会の持続的な繁栄に貢献します。</p>	信用金庫の 余資運用強化等	   
<p><b>◆あらゆる人々の幸福</b></p> <p>信用金庫とともに地域のシニア世代、子どもたち、そしてあらゆる人々の幸福のための活動に取り組み「誰一人取り残さない」多様性と包摂性のある社会の実現に貢献します。</p> <p>特に、我が国の将来を担う子どもたちを、金融分野にとどまらず、幅広く支援します。</p>	あらゆる世代に向けた 多様な商品提供等	     
<p><b>◆地球環境の保全</b></p> <p>事業活動における環境への負荷を低減することに努め、また、グローバルに投資を行い、環境問題に配慮した投資を推進することで、地球環境の保全に貢献します。</p>	ESG 投資の推進等	    

## <環境方針・人権方針>

「信金中央金庫グループ環境方針」および「信金中央金庫グループ人権方針」を定め、環境保護および人権の尊重に向けて、信金中央金庫グループ一体となって取り組んでいます。

# コンプライアンス態勢・リスク管理態勢

## 1. コンプライアンス態勢について

信用金庫業界のための資産運用会社として、高い社会的責任や公共的使命を果たすため、取締役会のもとでコンプライアンスに関する問題を一元管理する体制を構築しています。

原則月次で開催するコンプライアンス・運用管理委員会では、コンプライアンスに関する重要事項を審議しています。コンプライアンス統括部門および関連部門を定め、それぞれの役割を明確にし、全部門にコンプライアンス責任者、担当者を配置しています。また、コンプライアンス態勢の適切性、有効性を検証するため、全部門から独立した内部監査部門を設置しています。

上記責任や使命を果たすための施策として、役職員が遵守すべき倫理規範および行動基準を示した「しんきんアセットマネジメント投信倫理綱領」、年度ごとのコンプライアンスの具体的な実践計画である「コンプライアンス・プログラム」、役職員が遵守すべきルールを明確にするためのコンプライアンスの具体的な手引書である「コンプライアンス・マニュアル」を策定するとともに、全役職員を対象にコンプライアンス研修を行うなど、コンプライアンス意識の徹底に努めています。

## 2. 利益相反管理態勢について

業務運営において利益相反によりお客様の利益が不当に害されることがないように、利益相反管理態勢を整備し、その概要を利益相反管理方針として公表しています。

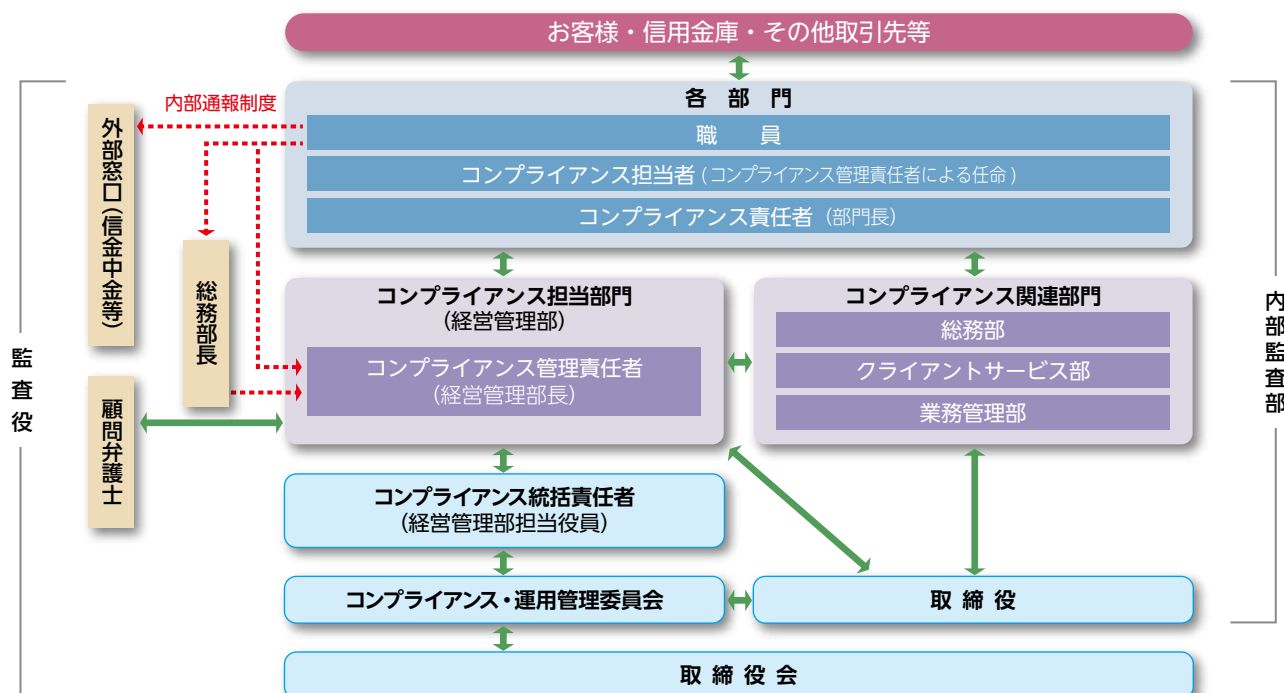
利益相反のおそれがある取引等の類型を以下のとおり定め、管理対象としています。また、当該管理対象に関する統括責任者と管理部門を定め、お客様の利益が不当に害されるおそれのある取引等の特定および利益相反管理を一元的に行っています。

- ・ 当社等の取引先と運用資産の取引等（議決権行使を含みます。）
- ・ 運用資産相互間の取引等
- ・ 当社およびその役職員が運用資産に係る情報を利用して行う取引等
- ・ 当社およびその役職員がお客様の資産運用に係る情報を利用して行う取引等
- ・ 当社と当社関係会社間の不当な情報の授受
- ・ 上記のほか、顧客の利益が不当に害されるおそれのある取引等

## 3. リスク管理態勢について

金融機関を取巻く環境は日々変化しています。当社では、お客様に安心してお取引いただくためにリスクの種類ごと（信託財産の運用リスク、事務リスク、システムリスク、コンプライアンス・リスクおよび自己資金の運用リスク）にリスク管理の基本方針と組織体制を定め、各リスクの特性に応じて、機動的・効果的なリスク管理態勢を構築しています。

## <しんきんアセットマネジメント投信のコンプライアンス態勢>





# 資産運用について

## <運用の基本的な考え方>

### ◆中長期的な運用の重視

運用は、分散投資を基本とし、ファンダメンタルズの調査・分析に基づく投資判断に加え、投資の意思決定に際して非財務的要素であるESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することにより、責任ある投資を実行するとともに、中長期的な資産価値の増大を図ることを重視しています。

### ◆運用の一貫性・継続性の確保

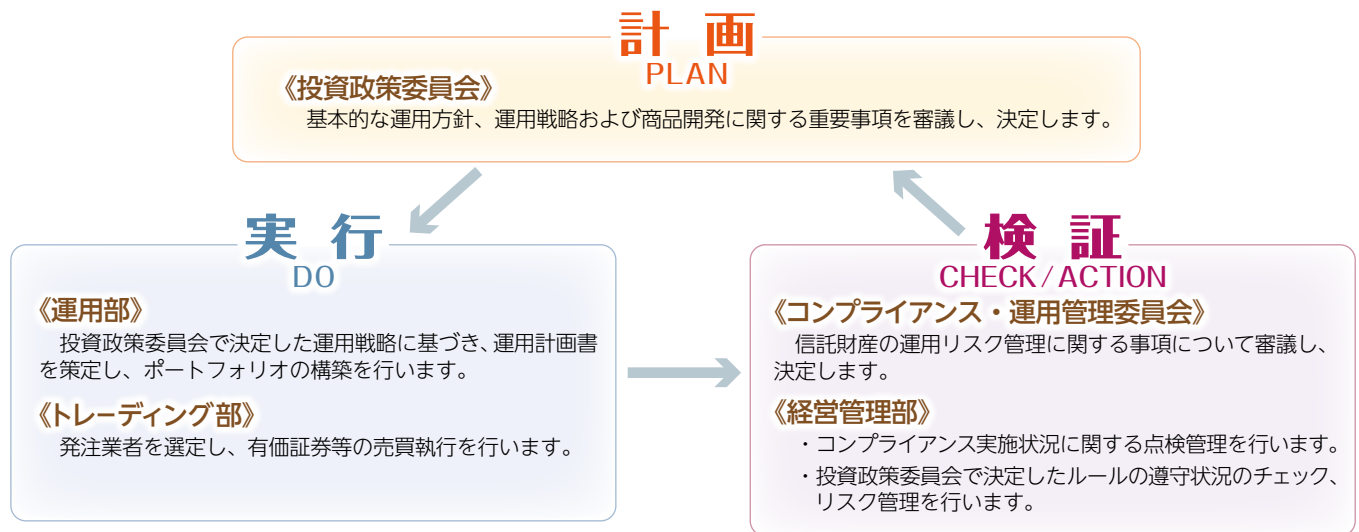
運用の実践にあたっては、プロセスやポートフォリオのモニタリング、リスク分析および結果検証など運用に係るPDCAを徹底し、一貫性・継続性を確保します。

### ◆積極的な情報開示

運用内容については、明確で分かりやすく、透明性の高い情報開示を積極的に行います。

## <運用管理体制>

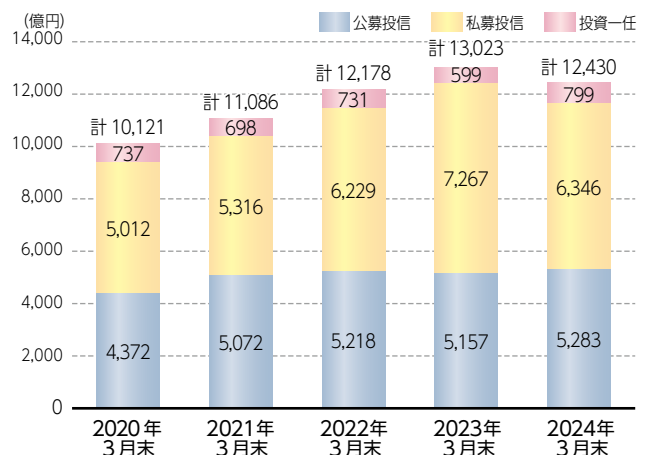
計画・実行・検証をつねに繰り返し、投資結果を最良のものにするための運用管理体制を構築しています。



## <運用資産残高推移>

信用金庫のお客様等個人投資家向けに公募投信を、信用金庫等機関投資家向けに私募投信を、一部機関投資家向けに投資一任契約を提供しており、年度末時点の運用資産残高は、2018年3月末以降1兆円を超えて推移しています。

2024年3月末の運用資産残高について、公募投信は新NISA制度の開始などもあり増加した一方、私募投信は、市況の影響による解約などもあり減少し、合計12,430億円となりました。



(注) 投信は、3月末純資産総額  
投資一任は、3月末契約残高（2020年～2022年は、年度の契約期日残高）

# 運用に関する取組み

信用金庫業界に特化した運用会社として、信用金庫および信用金庫のお客様の中長期的な資産形成に貢献することを第一の使命と考えており、そのための運用力強化に取り組んでいます。

## ◆運用プロフェッショナル人材の確保

お客様の信頼獲得につながる運用力強化には、豊富な経験と専門知識を持った人材を確保し、体制整備を行うことが重要だと考えています。

2024年3月末時点において、当社のファンドマネージャーの運用経験年数は平均約18年と、経験豊富なメンバーが揃っており、これらのメンバーが株式、債券、REIT等専門分野を活かしたチームにより運用を行っています。

また、若手人材を積極的に登用するとともに、経験豊富なファンドマネージャーが自身の運用経験や専門知識、市場動向を共有し育成に努めるなど、長期的な運用力の底上げを図っています。



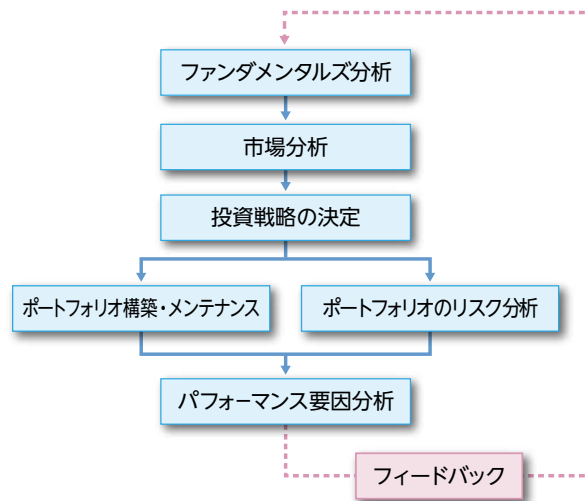
	2023年3月	2024年3月
ファンドマネージャー	16人	17人
平均運用経験年数	18年0か月	18年1か月
平均在籍年数	9年6か月	9年10か月
日本証券アナリスト検定会員	10人	10人

## ◆多角的な視点による投資調査

投資収益最大化のためには、市場は非効率的であるという前提のもと、多角的な視点による経済状況や市場動向等の投資調査を継続して行い、魅力的な投資機会を発掘することが重要だと考えています。

当社は、長年の資産運用で培ってきた投資知識や運用技術をもとに、ファンダメンタルズ分析、市場分析を行い決定する投資戦略に沿って投資を実行することで、各資産クラスや運用スタイルに適した運用を行っています。株式やREITのアクティブファンドでは、財務分析、収益性分析、流動性・価格分析などから中長期的にベンチマークを上回る成果を目指す運用を行っており、債券のアクティブファンドでは、マクロ経済分析、債券市場分析などを踏まえて投資戦略を決定し、ポートフォリオの構築を図っています。

これらの分析には、社内のアナリスト、エコノミスト、ストラテジストが収集・分析した情報が共有されており、ファンドマネージャーが魅力的な投資機会を発掘するための運用サポート体制が構築されています。



## ◆運用力のレベルアップ

運用力強化のためには、優秀な人材確保や体制整備に加え、投資対象資産の拡大や新しいアイデアを用いたファンドを検討し、運用していくことが重要だと考えています。

2023年度においては、AIを利用した運用手法の多様化に取り組みました。2024年度は、パッシブファンドとは異なる投資機会を提供できるアクティブファンドの運用力強化、より独自性のある商品を提供できる外国資産の運用力強化、シミュレーションの強化、パイロットファンドの組成検討など、運用力のレベルアップにつながる施策に幅広く取り組み、運用ノウハウの更なる蓄積を図ります。





# 商品開発に関する取組み

信用金庫および信用金庫のお客様に向けて、多様なニーズにお応えできる商品を提供し、お客様の中長期的な資産形成に貢献することを目指しています。

また、プロダクトガバナンスの強化や責任投資への取組みにも注力しています。

## ◆多様なニーズにお応えする商品ラインナップ

「中長期的なお客様の資産形成に資する」というコンセプトを軸に、幅広い資産クラスで多種多様な商品を提供し、その規模は2024年3月末現在、公募投信で5,283億円（39本）、私募投信で6,346億円（178本）となっています。

2023年度、公募投信については、新NISA制度へ対応したファンドを計3ファンド設定しました。また、2024年度も同制度へ対応した新規ファンドの組成に向けて取り組み、商品ラインナップの拡充に努めます。

私募投信については、外国債券ファンド、マルチアセット型ファンドおよびインデックス型リートファンドなど、様々な商品を計16ファンド設定しました。

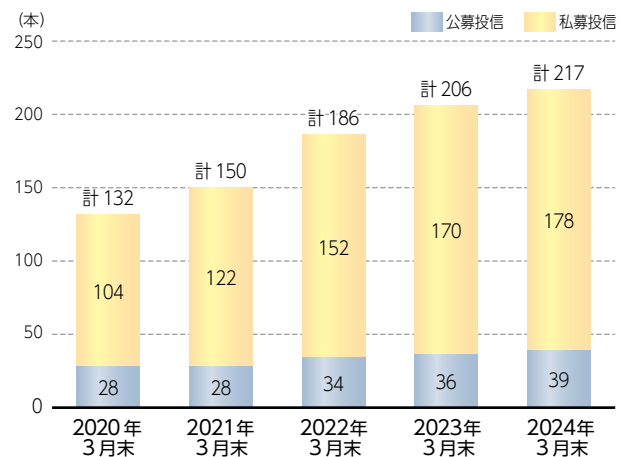


## <投信の商品数推移>

投信の商品数推移は右グラフのとおりです。

公募投信は、特定のテーマを持った商品よりもオーソドックスなタイプの商品が多く、厳選して設定しています。

私募投信は、機関投資家のニーズに沿った多様な商品をコンスタントに設定しています。



## ◆プロダクトガバナンスの強化に向けた取組み

お客様の資産形成へのさらなる貢献を目指し、個別商品ごとの品質管理を徹底するため、プロダクトガバナンスの強化に向けた新たな取組みを開始しています。

具体的には、2024年4月にプロダクトガバナンス・ワーキンググループを設置し、商品の適正性について組成段階から部門横断的な検討を行うとともに、組成後も定期的に検証し、必要に応じて改善を図る体制を構築しています。

## ◆責任投資に向けた取組み

お客様から大切な資金の委託を受ける立場として、2014年5月「責任ある機関投資家」の諸原則<日本版スチュワードシップ・コード>の受け入れを表明し、スチュワードシップ活動に取り組んでいます。

また、2021年11月に責任投資原則（PRI）の署名機関となり、責任投資への取組みを強化しています。

責任投資への取組みについては、商品開発を担う運用企画部内に設置された「責任投資推進室」が専任して取り組んでいます。

# サービス提供に関する取組み

信用金庫職員向けの研修やお客様向けのセミナーなどに講師を派遣するほか、レポートや動画等を通じて市場環境や投資信託の商品概要に関する情報を分かりやすく提供することで、信用金庫の公募投信販売をサポートしています。

## ◆信用金庫サポート業務

クライアントサービス部を中心に各部門の専門性の高いスタッフにより、総力をあげて信用金庫の皆さまをサポートしています。具体的には、公募投信販売サポートのため、信用金庫職員向けの投信窓販業務研修や、お客様向け資産運用セミナー等に講師を派遣しています。

研修では、各信用金庫からの要望に基づいた投資信託の基礎知識や各ファンドの内容、セールス話法などを分かりやすく説明しており、セミナーでは、資産運用の必要性や各ファンドの運用状況、内外経済の現状や見通し等を解説しています。また、研修・セミナー等は、対面による開催だけでなく、オンラインでも行っています。

## ◆2023年度実績

信用金庫職員向け勉強会（102 金庫、延べ 397 回）／お客様向けセミナー（28 金庫、83 会場）

	研修・セミナー例	内容
研修	投資信託の基礎知識	投資信託の仕組みやリスク・リターン、分散投資等
	投信セールス方法	効果的なアプローチやニーズ喚起、商品説明方法等
	投信窓販コンプライアンス	顧客に対する投資勧誘、販売ルール等
セミナー	資産運用の必要性	平均寿命や老後資金等による運用の必要性等
	世界経済の現状と見通し	各国の株価推移や景気の先行き等
	当社商品の運用状況	各商品の基準価額推移や市場見通し等



オンライン研修



研修風景



## 新NISA制度の概要

情報提供資料

2023年9月作成  
しんぎんアセットマネジメント投信(株)作成



しんぎんアセットマネジメント投信(株)作成  
NISA  
2023年9月作成  
しんぎんアセットマネジメント投信(株)作成

## ◆新NISA制度対応サポート

新NISA制度の対象となる商品を新たに設定するとともに、制度の変更点やポイント等の情報提供や、制度を踏まえた提案研修等を行っています。

今後も、対象商品の拡充を進めるとともに、研修やお客様向けセミナーを通じた情報提供により、信用金庫の投信窓販業務の推進に貢献したいと考えています。

## ◆動画による情報提供の充実

お客様により分かりやすく情報を提供するため、市況・マーケット情報や商品概要の動画を作成し、ホームページに掲載しています。

また、「信用金庫様向け専用ページ」には、商品説明に向けた動画を掲載するなど、信用金庫の投信窓販業務に役立つ情報提供も充実させています。





# データ集

## <貸借対照表>

(単位：百万円)

科 目	2022年度	2023年度	増 減
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>	<b>8,830</b>	<b>9,360</b>	<b>529</b>
現金・預金	8,096	8,583	487
未収委託者報酬	684	714	30
その他	49	62	12
<b>固定資産</b>	<b>178</b>	<b>187</b>	<b>9</b>
有形固定資産	91	96	4
無形固定資産	43	30	▲13
投資その他の資産	43	61	18
<b>資産合計</b>	<b>9,009</b>	<b>9,548</b>	<b>539</b>
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>	<b>767</b>	<b>740</b>	<b>▲27</b>
未払金	486	525	39
未払法人税等	151	99	▲52
その他	129	115	▲14
<b>固定負債</b>	<b>185</b>	<b>165</b>	<b>▲19</b>
退職給付引当金	147	149	2
その他	37	16	▲21
<b>負債合計</b>	<b>952</b>	<b>906</b>	<b>▲46</b>
<b>(純資産の部)</b>			
<b>株主資本</b>	<b>8,056</b>	<b>8,641</b>	<b>585</b>
資本金	200	200	—
利益剰余金	7,856	8,441	585
<b>評価・換算差額等</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
その他有価証券評価差額金	0	0	0
<b>純資産合計</b>	<b>8,056</b>	<b>8,641</b>	<b>585</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>9,009</b>	<b>9,548</b>	<b>539</b>

## <損益計算書>

(単位：百万円)

科 目	2022年度	2023年度	増 減
<b>営業収益</b>	<b>5,996</b>	<b>5,874</b>	<b>▲121</b>
委託者報酬	5,878	5,755	▲123
運用受託報酬	117	119	1
<b>営業費用</b>	<b>4,957</b>	<b>5,029</b>	<b>71</b>
支払手数料	2,900	2,834	▲66
その他	2,056	2,194	138
<b>営業利益</b>	<b>1,038</b>	<b>845</b>	<b>▲193</b>
営業外収益	0	0	0
営業外費用	1	4	2
<b>経常利益</b>	<b>1,037</b>	<b>841</b>	<b>▲196</b>
特別損失	3	3	0
<b>税引前当期純利益</b>	<b>1,034</b>	<b>837</b>	<b>▲196</b>
法人税等	319	250	▲68
法人税等調整額	2	1	▲0
<b>当期純利益</b>	<b>711</b>	<b>585</b>	<b>▲126</b>

### <本資料に関してご留意していただきたい事項>

- ※当資料は、しんきんアセットマネジメント投信株式会社により作成されたものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、当社情報の提供を目的としており、投資信託の勧誘を目的とするものではありません。
- ※当社は、投資信託の募集の取扱いおよび販売業務を行っていません。
- ※当資料は、信用金庫向けに、当社をよりご理解いただくことを目的として作成された資料です。
- ※当資料は、信頼できると思われる情報源に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ※当資料の中で記載されている経済全般の実績、評価または将来動向の表示等は、作成日時点におけるものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変わる場合があります。
- ※投資信託および投資一任は、リスクを含む商品であり預金と異なり元本の保証はありません。
- ※当資料を当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し、また、その他の方法で配布することはご遠慮ください。

 しんきんアセットマネジメント投信株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号  
03-5524-8161 (代表)

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第338号  
加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

UD FONT

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた、どなたにも見やすいデザインの文字を採用しています。